

山行報告書

通算山行NO	No. 92S		報告者	来生博子	
年月日	96年 12月 29日 (日曜日) ~ 96年 12月 31日 (火曜日)				
山行名	'96 冬山合宿				
山名	甲斐駒ヶ岳 (2967m) ・ 仙丈岳 (3033m)				
コース スタ 及イ ム	天候	(裾) 市役所発4:00 → 甲府5:30 → 諏訪SA6:10 → 伊那IC6:45 → 高遠町7:00 → 戸台口 (仙流荘) 7:15 → 戸台 (駐車場) 7:25~8:00発 ... 白岩堰堤8:45(休) 発9:00 ... 角兵衛沢コース入口9:50 (休) ... 八丁坂 (仙丈分岐) 10:50 (休) ... 11:50 (休) ... 大平山荘12:15 ... 長衛小屋テント場着12:45			
標高差	△S 戸台	1000m) 1030m	体力度	1 2 3 ④ 5 6
	■ 膳テント場	2030m		技術度	1 2 ③ 4 5 6
走行距離	下戸狩	~ 戸台	≠ 250 km	展望度	1 2 ③ 4 5 6
参加者・役割	CL	後藤 隆徳	49	30年振りのコースだ。私の冬山原点です。	
	SL	大根田元男	60	天気が良く雪道を歩いて良かった。	
	記録	来生 博子	48	八丁坂は楽勝、取り越し苦労だった。	
	食料	加藤 秀子	47	こんなに早く宴会して善いのでしょうか	
		佐野 雅道	65	歩荷訓練4回の甲斐があった。	
		高岡八千代	59	正月準備を忘れ、山に来て良かった。	
第1日目	諏訪SAを過ぎると辺りは明るさを増し、雲一つ				
	ない空に山並みは荒涼と聳え、雪山へ挑む心が駆り				
	たてられる。伊那に入り、甲斐駒・仙丈が正面に見				
	えると秋から3度も訪れる幸せに浸る。戸台口から				
	望む鋸のすごく切れ込んだ山容は、妙に近しく眺め				
	られ、大ギャップでのガチガチの寒さで肩がらみ降				
	下した事や、ザレ場を転がる石の乾いた音の響き、				
	角兵衛沢コルのテン泊など思い起され、改めていつ				
	かもう一度の感慨湧く。その鋸を眺めつ戸台川に沿				
	って車は走る。橋本山荘をぐるっと回り橋を渡ると川原の戸台駐車場に着く。既に7割程				
の車で埋まっていた。食料・テント用具等、荷物を分配し余計な物は数gでも持たない事					
にし、7時間の長丁場に備えた。後藤25kg、大根田21kg、佐野21kg、加藤21.5kg					
高岡18kg、来生19kgで出発。単調な工事用の車道を白岩堰堤まで歩く。暖冬なのか無					

雪状態だが川原に際立つ断崖には、搾り水がつららや氷の固まりになってへばりつき大気の冷たさを物語っている。堰堤で休憩の後は川原を大きく斜めに横切り、凍った滝を見た
りだんだん白くなってきた道を踏みしめ1時間近く歩くと、角兵衛沢入り口とある。

矢印の指す右岸上方には驚異的な高さに雪を抱えて秋山合宿テン場のコル。改めて感無量！ミカンが食べたくなった。この程度なら置いてくることもなかった。本当に残念！

丹溪山荘を越えると何時の間にか苦慮した八丁坂を歩いていたという感じで、車に残したビールが無性に惜しまれた。大平山荘に近付いてやっと、冬山らしい積雪を踏む。南アルプス林道は分厚い氷に覆われ、アイゼン未装着の足は時々ツルリッ！

林道に出たのは12:30分。ここまで普通に歩いてきたのに4.5Hで到着だ。凄いと思った。考えてみれば、車に残した物の重量は僅かだ。15分も氷の道を歩くとテン場に着き、大小色とりどりのテントが点在、31張りもある。テン場使用許可をとり、乾杯のお酒を仕入れて北沢長衛さんのレリーフの前に8人用ブルーエスペースも仲間入り。

テント入り口に『レイホー』の会旗を揚げ、明日やってくる『あさぎり』の二人に目印とする。力が揃って来れて陽の高いうちに幕営できる事を喜び、乾杯！山に囲まれた陽溜りは深雪の上とはいえ春のように暖かいが落日は驚くほど早く、2:40分、仙丈岳に陽が落ちると余熱はなく途端に寒くなり、あわててテントに入る。なんなのだ！この寒暖の差は。さすがに冬の2000級の高地である。早めに水を容器に満たす。折りも折り、沢の水は‘0157’を懸念して、我々は使わずに山から滴り落ちる水を汲む。ザックはテント脇にツェルトで包み、必要最小限だけテントに入れ暖を取りながら夕食の支度。加藤特製のキムチ鍋がよく売れる。飲んで食べて話が弾む楽しいテントのひとときである。ホワイトガソリン使用のコンロ取り扱い実習、テント泊に必要な装備品やあったら便利な物登山の一般遍歴や自己の経験談等、大変有意義な話が人生の先輩者たちから聴くことができた。佐野さんの初期登山はボーナスを全部費やさないと買えなかったという軍靴の登山靴に、竹製のピッケル、昭和30年頃という。CLの足袋（-たび-ではない）を履いてこれは欲しくなった。雪はさらっと落ちるし、テントの出入りが楽、暖かい。

40分程外に出しておいた水が凍った。しかし、プリンは固まろうとしない加藤の失敗作である。5時すぎ、周りの影山の向日に、夕日を受けた摩利支天が一際輝く。神秘的な美しさに見惚れる。明日は3時起きで双子山経由の駒ヶ岳登山だ。疲労が無いので中々寝つかれず。



↑ 冬山登山はまず重荷を背負うことから始まる

20kgで8時間歩ける体力、技術、精神力をつけたい





北沢テント場は仙丈岳、甲斐駒の見えるステキなところ
冬でもトイレが使える明るい雰囲気

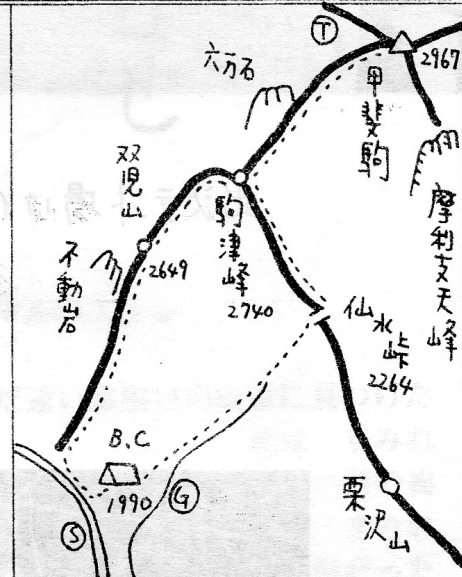


山名	甲斐駒ヶ岳 (2,967m)		報告者	佐野 雅道	
コースタイム	12月30日	起床3:00 出発4:15⇒双児山 6:38 ⇒駒津峰7:35⇒駒ヶ岳 (8:55~9:30)			
天候	天候	駒津峰 10:45⇒仙水峠11:40 ⇒BC着12:30			
標高差	△S北沢BC~T駒ヶ岳	≒ 977m	体力度	1・2・3・4・⑤・6	
	1,990 2,967		技術度	1・2・3・4・⑤・6	
	▼T駒ヶ岳~G北沢BC	≒ 977m	展望度	1・2・3・4・5・⑥	
	2,967 1,990				

参加者役割	CL	後藤 隆徳	49	地球が丸い事が実感出来た。	駒ヶ岳頂上での つぶやきでした。
	SL	大根田元男	60	これだけ展望できると同定が忙しい	
	記録	佐野 雅道	65	太平洋が見えるのではないか	
	医療	高岡八千代	59	きつい登りでした	
	会計	来生 博子	48	北岳はすぐそこ。今からでも行けそう	
	食料	加藤 秀子	47	ラッセルはきついが面白い	

第2日目
20日の上弦の月がコウコウと光り、標高2,000mから仰ぐ冬の星は一層大きく見える。幾つかのテントはボンボリに灯が灯った様に見える。出発の準備も急いでいるのかそんなテント場の脇を、冬の駒ヶ岳を目指して6つのランプが北沢峠に向かう。

北沢峠から600mの高度差のある双児山への急登が始まる。トレースはあるものの下りで付けたもので、コンパスの長いCL、加藤といえども大変な労力を費やしている。後続の佐野達は若干楽とはいえ、急登に30分を経たないうちに汗が吹き出る。早々にヤッケ類を脱ぎ調節を計る。それでも急登の続くトレースで一汗も二汗もかき、未だ明けやらない伊那谷の灯火を、眼下に見ながら樹林の中を登る。



登る事2時間双児山に着く。駒ヶ岳を介した東の空は、オレンジ色の帯がその中を広げて行く。御来光だ！富士山か北岳が・・・シルエットに浮かびやがて日を浴びていく。感動的な風景である。この場に立てたことに感謝。(CLに同僚に、そして健康であることに)しかし目的の駒ヶ岳はまだ先にある。一旦下り駒津峰への200mの上りになる。この辺りハイマツ帯だが雪の下になり、ところどころに顔を出している。夜は明け周辺の山々が朝日に輝いているのが目に入るが、楽しみは後とばかり駒津峰を後にして岩稜帯に入る。これから危険なやせ尾根、岩稜。気の許せない箇所が続く。狭いチムニー状の岩場を過ぎアイゼンを岩に引っかけないよう登ること1時間20分、駒ヶ岳山頂。360度雲一つない快晴、風も穏やか。東に秩父山地、北に北アルプス北部から妙高戸隠か、西には遠くに白山、手前に中央北アの盟主穂高、槍、南には南アルプスの山々富士山、その右脇に天城と愛鷹、左脇には金時の特異な山頂の形と、中部の全ての山といっても過言でない展望。暫

し時を忘れた。

下山に際し、CLからの注意事項「下りの方が危険。アイゼンを岩等に引っかけないよう気合を入れて歩くこと」。下りは上ってきた道を下る。チムニー状の岩場では安全の為、ロープで確保して下る。六万石のやせ尾根も風がないので安心して歩ける。再び駒津峰に出ると、眼前に明日登る仙丈が雪に覆われた山肌を広げ、後ろは今登った駒ヶ岳が荒々しい岩稜を冬の光に輝かせている。ここ駒津峰の展望も見飽きることがない。展望を堪能した後、仙水峠を目指して下る。

仙水峠の道はすぐ樹林帯となるが、かなり急坂の下りであり、気を抜くと滑り転倒する。注意しながら下るが、CL、女性群は早い。仙水峠に着き、栗沢山を經由してBCに戻ることを検討したが時間的にも若干遅い。その上飲料水が底をついてきている等の理由と、飲料水への切望がつのりBCに向かって下っていくことにした。

BCに到着。テントは61張りに増加。(昨日は37張り)『あさぎり山の会』の齊藤・桜井両氏が14:25分着。合流。19:40分まで交流。大いに盛り上がる。

註1. 電球が切れ、予備球を交換した。下山後、予備球の補給をしておくこと。

2. 電子回路を使用したカメラは気温が(-)になると機能しなくなることがある。

カメラポンチョの使用等保温対策、電池は新品を用いること。(予備も)

3. アイゼンの着脱。出発時、全ての装備が終了し歩行体制が整ってから着ける。

帰着時、到着と同様直ちに脱ぐこと。(何れもテント等に損傷を与えぬため)

- そ
の
他
の
記
述
1. 来生さんは今年3度目の甲斐駒だった。
 2. 長衛小屋に後藤さんの友人の芦安の清水さんの写真とテレカがあった。
 3. 駒の下りでザイルに次々繋がったガイド登山を見かけた。この程度でザイルを使わなければならぬとは登る資格があるのか。
 4. 駒のルートは秋に女性軍が登れなかった直登ルート。摩利支天のトラバースルートはトレースがなかった。
 5. 黒戸尾根を登ってくるパーティが結構多く女性もいた。
 6. 北沢テント場は半日村なので、14時頃陽が入ってしまうとモーレツに寒くなった。
 7. 長衛小屋のビール500円、酒400円。2泊で16,900円飲みました〜あ。ギャオ〜。主人が、『一升瓶でやれば良かったネ』と言った。
 8. 生ゴミ、缶は仕分けして北沢テント場に捨てる場所があった。
 9. 後藤さんのテント内用の足袋(象の足)はとても好評で皆の注目の的になる。
 10. トイレは午後9時迄は電気がついて親切だ。以降はランプの灯で一晩中明るい。
 11. 北沢の水は例の件があるので使わなかった。おかげで全員何事もなかった。



黎明の仙丈岳をバックに駒津峰を登る

苦しい登リこそ登山の醍醐味だ

甲斐駒頂上直下バックには北岳を始め





↑ 甲斐駒は何度登ってもイ山だ

✓ 賽の河原を思わせる美しい仙水峠を下る

左上は後藤が29年前登攀した摩利支天峰



山名	仙丈岳 (3,033 m)		報告者	加藤 秀子	
コースタイム及ム	12月31日 天候 (快晴)	起床1:00 出発2:10⇒仙丈岳頂上着 6:30 出発7:00⇒小仙丈7:50⇒テント 場着 9:10 出発10:30 ⇒戸台着14:10 出発14:50 →裾野着19:30			
標高差	△S北沢峠 2,030 ~T 仙丈岳 3,033 = 1,003m		体力度	1・2・3・4・⑤・6	
	▼T仙丈岳 3,033 ~G 戸台 1,000 = 2,033m		技術度	1・2・3・4・⑤・6	
			展望度	1・2・3・4・5・⑥	
参加者役割	CL	後藤 隆徳 49	登れたのは皆それぞれの力だよ。		
	SL	大根田元男 60	昨夜、飲み足りなかったので今日は疲れた。		
		佐野 雅道 65	昨日も辛い。今日も辛い。		
	医療	高岡八千代 59	来年もこの感激を味わいたい。		
	会計	来生 博子 48	きついと思ったのは私ばかりだと思った。		
	食料	加藤 秀子 47	冬山の本物の寒さは骨身に応えた。		
第3日目	<p>『時間だ!』CLの声に慌てて飛び起きた。すぐ寝袋の始末をし、昨夜のキムチ鍋の残りを利用して雑炊の支度に取り掛かる。キムチの辛さが食を進ませるのか、大目に作った雑炊もあっという間に平らげてしまった。早々に食事を済ませ各々出発の準備を始める。外は風もなく素手で支度が出来る程暖かい。見上げる天井は満天の星。ロングスパッツ、アイゼンをつけピッケル片手にヘッドランプの灯で出発する。</p> <p>5分程林道を下ると右手に仙丈岳登山口の道標がある。ここから直ぐに樹林帯の急登に喘ぐ。トレースが出来ているのでラッセルの必要は無いが、段差のきつい個所が多く、ウンコラショと足を上げる動作はラッセルをするのと同じ位の労力を要した。滑らないようつば足でしっかり雪を捉えて歩くが、2ピッチ目辺りから汗が吹き出、『きつ〜い』の声が出始めてきた。</p> <p>森林限界を抜け稜線に出ると風がかなり強い。CLの指示で目出帽、オーバーズボンをつけるが烈風吹きすさぶ中では身に付けるのも至難の技だ。風に飛ばされないようやっと着込む。登るにつれ風が激しく、時折狂ったような唸り声を上げている。皆声も出ない。前かがみになって、ピッケルに渾身の力を込めて身体を支えるのが精一杯なのだ。寒風が手の先、足の先に凍みて辛い。ジンジンする。モーレッツな痛さに『雪山はやっぱりプラブーツにするべきだった』と後悔した高岡、加藤だったが既に遅し。あらためて『厳しい冬山に来たんだ』という実感を、しみじみと噛みしめる結果になった。風が少しない頃を見計らって、急傾斜の雪をピッケルで均し、座って一息入れる。テルモスの暖かいココアが、じわーっと五臓六腑にしみわたり美味い。</p> <p>さぁー出発だ! CLを先頭に佐野・高岡・加藤・来生・大根田と続く。高度が上がるに</p>				

つれ息もあがり、反対に足は重くなる。佐野は太股が張って辛いと休みがちになってきた。来生も『ここで待っているから登ってきて』と、とても辛そうだ。段々と尾根が細くなり緊張感が増してくる。アイゼンを引っかけないよう足元に注意しながら歩く。

やがて小仙丈。『ヨロレイホ〜!』CLの声に顔をあげると『わぁーすごい』左手奥に茜色に棚引く雲の中で、逆光の富士のシルエットがポッカーリ浮かぶ。見事だ。皆疲れも忘れ暫し、夜明け前の素晴らしい情景をたっぷり堪能する。目指す頂上はもう目の前だ。がその前にカミソリの刃渡りのような鋭く尖った尾根が、5〜6m位の長さで仙丈岳頂上の直下まで続いている。『全神経を集中させろ。甘くみるな。ピッケルを両手で攔んで慎重に渡れ』とCLの張り詰めた声に、皆緊張する。恐る恐る最後の難関を突破。

『ヤッター〜頂上だ!』。『良く頑張った』と一人一人に握手をしながら『無事に皆で登れたのが何よりも嬉しい。』と相好崩して喜ぶCL。顔をクシャクシャにして『登れた事が嬉しい』と佐野。『この年でよく頑張れたな〜』と顔を輝かして、お互いを褒めあう大根田と高岡。『今年続けて3回だよ』と感無量の来生。皆の晴々と上気した顔が何とも清々しい。

6:50 荘厳な幕開けた。今年最後の御来光を万感の思いをこめて拝む。金色の光の中で、中央アルプスの山塊が・・・富士山が・・・昨日登頂した甲斐駒が・・・と雪化粧をした雄大な姿が次々と目前に迫ってくる。360度のパノラマに、さすが3,000mと感動した。来生が登頂した喜びを(あさぎり)の斉藤さんに無線コールをするが応答がない。『昨日の様子じゃまだ寝てるんじゃない?うん。あり得る』と皆で勝手な想像をしてしまった。ごめんなさい。

30分の休憩後、往路を下山する。カチカチの雪の上の風紋がとても美しい。下りは登り以上に慎重になる。「ボチボチ人とすれ違い始めたな」思ったのも束の間、来るわ来るわの大ラッシュ。大晦日を山で過ごす人が何と多いことか・・・と自分を棚にあげて変な所で感心してしまっただ。小仙丈を過ぎ這松が目立ち始めた地点、安全地帯に入った所を確認してCL・来生・高岡・加藤は、テントを撤収する為、先隊になり駆け降りるように下るが、途中でCLと加藤はアイゼンを外し、ツルンツルンと靴を滑らせながらCLはグリセードで、加藤は尻セード?で雪道を一気下りをする。是が又面白い。来生・高岡はその後をアイゼン付けた儘必死でついてくる。アッという間に着いてしまった。先ずテントを撤収、荷物の整理をし30分後佐野・大根田と全員揃った所で餅入り雑炊でお腹を満たす。このキャンプ地は未だ陽があたらず寒い。直ぐに出発する。後は戸台の駐車場迄もうひと踏ん張りだ。来年は何処にしようかの花が咲く。

一年の総決算に相応しい山行であった。苦しみながら登った山は、又ひとしお感慨深いものがある。中央高速の車の中から甲斐駒・仙丈を振り返りつつ、振り返りつつ、名残を惜しみながら帰路に着いたが、一生忘れないだろう。CL本当に有難うございました。そして、皆さんお疲れ様でした。『来年も又良い山行が出来ますように』と願いながら・・・とうとうエキサイティングな一年が終わった。



↑ B.C ではあさきツの斎藤、桜井さんと交流した

↓ 12月31日 この日一番で仙丈岳頂上に立った



